

SIAF2020

札幌

Sapporo
International
Art Festival

国際芸術祭

siaf.jp

ディレクターチーム発表

主催:札幌国際芸術祭実行委員会／札幌市

札幌国際芸術祭2020開催に向けて ディレクターチームを発足しました

札幌国際芸術祭実行委員会では、2020年度の冬季に開催する札幌国際芸術祭2020(Sapporo International Art Festival 2020 略称:SIAF2020)に向けて準備を進めているところですが、このたび、SIAF2020のディレクターチームを発足しましたので発表いたします。

今回で3回目となる札幌国際芸術祭は、3年に一度、札幌を舞台に開催される芸術の祭典です。2014年に初開催し、過去2回は夏から秋にかけて開催してきましたが、SIAF2020では、さらに札幌の特徴や魅力を生かしていくため、雪の降る冬季に開催することとしました。引き続き、現代アートの紹介などを通じて市民の創造性を高めるとともに、題材として、冬、雪だけではなく、北方圏の文化なども取り扱い、札幌の持つ魅力を広く国内外に発信する機会としていきます。

ディレクターについては、これまでのゲストディレクター1名の体制から、専門性を持ったチーム制へと変更します。芸術祭のプログラムを企画監修するディレクター2名に加え、芸術祭を来場者目線で分かりやすく伝えるコミュニケーションデザインディレクターを設けます。

このたび、ディレクターチームのうち、現代アートとメディアアートの企画ディレクター2名が決まりました。選考に当たっては、当実行委員会事務局と札幌国際芸術祭ミッティー(P5参照)で候補者を選定し、当実行委員会で決定しました。コミュニケーションデザインディレクターについては、今後、公募により選考します。

当実行委員会では、来夏をめどに、会期や会場、テーマなどを発表していきます。

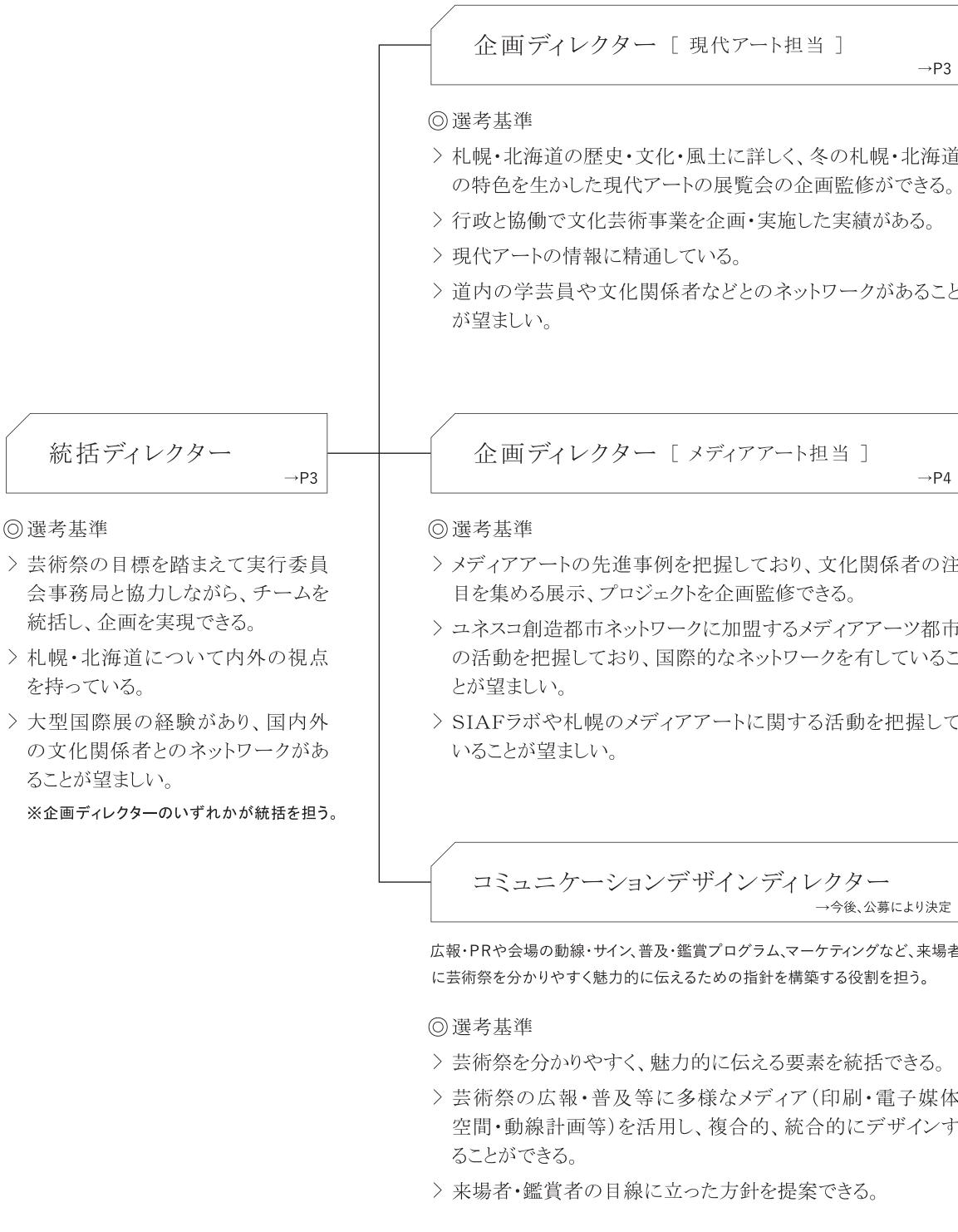
引き続き、札幌国際芸術祭にご注目ください。

今後のスケジュール(予定)

| | |
|----------|------------------------------|
| 2018年度 秋 | コミュニケーションデザインディレクターの公募開始 |
| 2019年度 春 | コミュニケーションデザインディレクターの発表 |
| 夏 | SIAF2020開催概要の発表(テーマ、会期、会場など) |
| 冬 | SIAF2020参加アーティストの発表・イベントの実施 |
| 2020年度 秋 | SIAF2020開催概要の最終発表 |
| 冬 | SIAF2020開催 |

SIAF2020

ディレクターチームの体制と選考基準



ディレクターチーム紹介

現代アート担当 及び 統括

天野 太郎 (あまの・たろう)



撮影：金川晋吾

◎プロフィール

横浜市民ギャラリーあざみ野主席学芸員。多摩美術大学、女子美術大学、国士館大学、城西国際大学の非常勤講師。美術評論家連盟所属。北海道立近代美術館勤務を経て、1987年の横浜美術館開設準備室より同館で国内外における数々の展覧会企画に携わる。「横浜トリエンナーレ2005」でキュレーター(2011年、2014年はキュレトリアル・ヘッド)を務めたほか、横浜美術館、市民ギャラリーあざみ野での担当展覧会に、「戦後日本の前衛美術」(1994年)、「ルイーズ・ブルジョワ」(1997年)、「奈良美智 I DON'T MIND, IF YOU FORGET ME.」(2001年)、「ノンセクト・ラディカル 現代の写真III」(2004年)、「金氏徹平:溶け出す都市、空白の森」(2009年)、「考えたときには、もう目の前にはない 石川竜一」(2016年)、「新井卓 Bright was the Morning—ある明るい朝に」(2017年)、「金川晋吾 長い間」(2018年)など多数。

◎メッセージ

このたび、札幌国際芸術祭2020の統括ディレクター兼企画ディレクター(現代アート担当)を拝命いたしました天野太郎です。現在は横浜市にある横浜市民ギャラリーあざみ野で主席学芸員を務めておりますが、1982年から1987年まで北海道立近代美術館の学芸員として奉職し、ここ札幌で美術館学芸員のキャリアをスタートさせました。その後、横浜美術館の開設準備室へ移り現在に至っております。学芸員生活の最後に私にとっては第二の故郷とでも呼ぶべき札幌でこのようなスケールの大きな事業に携われるのは大きな喜びでもあります。今回は、これまでの実績を継承しながら、札幌、北海道の豊かな人材や関係機関とのつながりを緊密に築き、その歴史性、地域性を掘り下げながら実りある国際展を実現させたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

◎選考理由

天野太郎氏は、1982年から5年間北海道立近代美術館で学芸員を務めた後、横浜を拠点に現在に至るまで国内外の現代アートの展覧会を数多く企画してこられました。札幌に暮らし、美術館に勤務した経験をもつ天野氏は、札幌と北海道の歴史・文化・風土に明るい上、SIAF2020の実現に求められる多角的な視点と道内外の豊かな人脈を持ちあわせた美術専門家です。また、2016年度からは札幌国際芸術祭コミッティーの一員として、札幌市の文化行政とSIAFの指針の構築にも寄与してこられました。現代アートの実務者として天野氏が長年培ってこられた企画力、内外のネットワーク、そして老若男女を問わず人々が信頼を寄せるその人柄によって、札幌・北海道と国際的な現代アートシーンを結びながら、札幌の特徴を生かした冬季開催にふさわしい現代アート展を企画監修していただけすることが期待されます。以上の理由から、天野氏を選考いたしました。



Photo: Zbigniew Kupisz

メディアアート担当

Agnieszka Kubicka-Dzieduszycka (アグニエシュカ・クビツカ=ジェドシェツカ)

◎プロフィール

メディアアートキュレーター、プロジェクトマネージャー、大学講師。ヴロツワフ大学卒業後、1994年から現WROメディアアートセンター財団^{*1}の一員となる。以来、ポーランドのメディアアート界を牽引する国際イベント「WROメディアアートビエンナーレ」に過去13回にわたり携わる。2008年のWROアートセンター設立時より、プログラムの共同開発、国際連携プロジェクト、アート・メディエーション^{*2}に携わる。欧州連合(EU)出資プロジェクトの企画運営も経験。近年の主な企画に、「Art II Biennial 2018」(フィンランド)におけるポーランド関連プログラムのほか、ウクライナ、スウェーデン、日本、ドイツ、イスラエルでの展覧会、ワークショップ、上映などがある。2016年から2017年にかけてWROアートセンターで開催された日本のメディアアート展「Reversible//Irreversible//Presence」に携わるなど、日本のメディアアーティストとの関わりも多い。

*1 現代美術、メディア、コミュニケーションを専門とするポーランドの民間公益団体

*2 鑑賞者と作品の対話を仲介するプログラム。ガイドツアー、ワークショップのほか、出版物や教育プロジェクトの取り組みなど、そのプログラムは多岐にわたる。

◎メッセージ

このたび、ディレクターチーム、実行委員会の皆さんとともにSIAF2020に携われることを大変光栄に思います。私は20年以上にわたり、メディアアートフェスティバルやアートセンターで日々の運営に携わってきました。SIAF2020では、この経験が十分に生かせるものと確信しています。私は現代の自然と文化が一体化した科学技術社会を背景とした誰もが参加できる包括的な参加型活動に关心があり、それを企画に生かしたいと考えています。制作過程において豊かなコラボレーションを生み出すということが、メディアアートの特徴の一つと言えます。また、広範な社会課題への関心を喚起するような批評性を持った手段にもなり得るものだと感じています。そのため、メディアアートには感情的・知的な議論を引き起こしたり、多様な越境や変化をもたらしたりする力があると私は信じています。加速する社会のデジタル化は複雑な問題を生み出し、私たちの生活や価値観は変化し続けています。私たちを取り巻く状況のあらゆる側面で、メディアアートは全く新しいアプローチを投げかけてくれると実感しています。札幌という地域の固有性を世界に結び合せるような、魅力的で遊び心のある展覧会を皆さんとともに作り上げたいと思います。

◎選考理由

アグニエシュカ・クビツカ=ジェドシェツカ氏は、ポーランドのキュレーター、アートイベントのプロジェクトマネージャーであり、大学卒業後、20余年にわたり、「WROメディアアートビエンナーレ」のスタッフとして携わってきました。このビエンナーレは1989年、ポーランドが民主化により共和国になった直後から継続的に開催されているもので、芸術と科学技術、コミュニケーション、社会活動が交差する領域でさまざまな問題を提起し続けてきました。ジェドシェツカ氏自身も、メディアアートに関連する多くの展覧会やフェスティバルの企画、さまざまな国際文化イベントのコーディネーターや芸術祭の審査員を務めるだけでなく、WROビエンナーレでは日本のメディアアート作品を数多く紹介しており、日本の美術芸術文化にも造詣があります。こうした企画、運営、批評にまたがる複合的、国際的な経歴と、今回のメディアアートディレクターに求められている選考基準を総合的に評価して、ジェドシェツカ氏を選考いたしました。

札幌 国際芸術祭

siaf.jp

Sapporo
International
Art Festival

<札幌国際芸術祭実行委員会>

顧問：高橋 はるみ／北海道知事 岩田 圭剛／札幌商工会議所会頭
会長：秋元 克広／札幌市長
副会長：岸 光右／札幌市副市長 中島 秀之／札幌市立大学学長
委員：酒井 裕司／一般財団法人さっぽろ産業振興財団 専務理事 廣田 恒一／札幌商工会議所 専務理事
廣瀬 兼三／株式会社北海道新聞社 代表取締役社長 若泉 久朗／日本放送協会札幌放送局(NHK) 局長
柴田 龍／一般社団法人札幌観光協会 会長 長澤 徹明／公益財団法人札幌市公園緑化協会 理事長
白鳥 健志／札幌駅前通まちづくり株式会社 代表取締役社長 廣川 雄一／札幌大通まちづくり株式会社 代表取締役社長
大友 裕之／公益財団法人札幌市芸術文化財団 副理事長 小出 幸希／北海道環境生活部文化局 局長
大川 祐規夫／北海道教育庁生涯学習推進局 局長 小西 正雄／札幌市経済観光局 局長
高野 馨／札幌市市民文化局 局長

<札幌国際芸術祭コミッティー> 2018.9.21現在

芸術祭の開催及び普及啓発に関する事業について、専門的見地から実行委員会事務局に対し実務的な助言、サポートを行う。

飯田 志保子／あいちトリエンナーレ2019 チーフ・キュレーター／SIAF2014 アソシエイト・キュレーター
久保田 晃弘／多摩美術大学美術学部情報デザイン学科教授／SIAFラボ プロジェクトリーダー¹
吉崎 元章／札幌文化芸術交流センター SCARTS プログラムディレクター

◎参考 札幌国際芸術祭の実績

SIAF2014

| |
|-----------------------------|
| 開催テーマ／「都市と自然」 |
| サブテーマ／「自然」「都市」「経済・地域・ライフ」 |
| ゲストディレクター／坂本 龍一 |
| 開催期間／2014年7月19日～9月28日(72日間) |
| 会場数／18会場 |
| 参加アーティスト数／64組 |
| 作品数／214作品 |
| 来場者数／478,252人 |
| 経済波及効果／59億300万円 |

SIAF2017

| |
|----------------------------|
| 開催テーマ／「芸術祭ってなんだ？」 |
| サブテーマ／「ガラクタの星座たち」 |
| ゲストディレクター／大友 良英 |
| 開催期間／2017年8月6日～10月1日(57日間) |
| 会場数／44会場 |
| 参加アーティスト数／151組 |
| 作品数／697作品 |
| 来場者数／381,697人 |
| 経済波及効果／48億9100万円 |

※ 本資料についてのお問い合わせ

札幌国際芸術祭実行委員会事務局 広報担当

〒060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目札幌時計台ビル10階
TEL:011-211-2314 FAX:011-218-5154 E-MAIL:press@siaf.jp

Website:siaf.jp

Facebook:siaf2014info

Twitter:siaf_info

Instagram:siaf_info